

20回目を迎えた サマーチャレンジ

～“夜空のムコウ”にあるもの～

2009～2012、4期のサマーチャレンジ校長

Tom Haruyama
Kavli IPMU

August 22, 2026

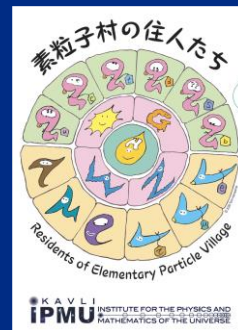
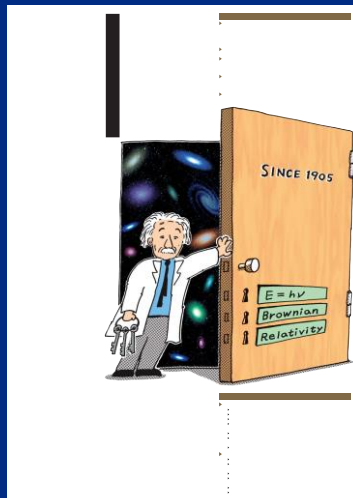


簡単な自己紹介



春山富義

- 2013 KEK素核研副所長、現在、東京大学Kavli IPMU特任教授
- TRISTAN、KEKB等の超伝導磁石冷却等、低温工学研究に従事
- 重力波検出用パルス管冷凍機の開発
- 素粒子実験、**ダークマター検出用小型冷凍機**の開発
- **2009-2012 齊藤さんから2代目サマーチャレンジ校長引継**
- 2013-現在 **アジアサイエンスキャンプ**国際委員 (Secretary)
- Cryo-IllustratorとしてCERN Courierで命名、物理イラストを描く
- 登山、マラソン、富士登山マラソン完走



サマーチャレンジ20回！2007-2026

- 2009年着任後、目に留まるポスターを創作
- その年のサマチャレTシャツ図案にも（協力：松枝印刷）

The image is a collage celebrating the 20th anniversary of the Summer Challenge. It features a central photograph of a man with glasses, smiling, wearing a light blue t-shirt with a cartoon illustration of an elderly man with glasses and a mustache, holding a small object. Below the man's photo is a white box with the text "17年前" (17 years ago). Surrounding the central photo are numerous posters for the Summer Challenge, some of which are titled "この夏、研究者になろう!" (This summer, let's become researchers!). The posters are arranged in a grid-like fashion, with some overlapping. At the bottom left, there is a red circular graphic with the text "ついに 20回!" (Finally 20 times!). To the right of the man's photo, there is a vertical strip of posters, including one for "2026/17" and another for "2025/18". The overall theme is the Summer Challenge, which is aimed at university and college students.

大学生・高専生のための

ついに 20回!

サマーチャレ

17年前

サマーチャレンジ 校長時代(2009-2012)のエピソード

【とにかく、毎年、若く、情熱的で**熱い夏**だった！】



サマーチャレンジ 校長時代(2009-2012)のエピソード

【とにかく、毎年、若く、情熱的で**熱い夏**だった！】



Career building

サマーチャレンジ 校長時代(2009-2012)のエピソード

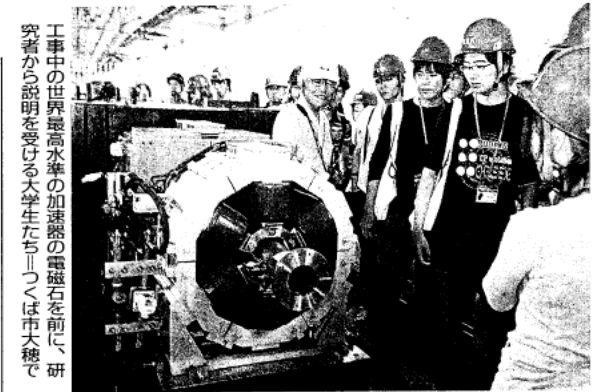
【とにかく、毎年、若く、情熱的で**熱い夏**だった！】



【多くのメディア等に取り上げられた！】

- 茨城南 2011年(平成23年)8月24日(水)

每 日 新 聞



全国の大学生合宿

高エネ研で先端の物理学ぶ

つくば

物理学を学ぶ全国各 地の大学生が、つくば 市大穂の研究施設「高 エネルギー加速器研究 機構」に集結、9日間 の合宿に励んでいる。 23日は午後から世界最 高水準の加速器Bフ ァクトリー（工事中）を 含む実験施設4カ所を 見学。素粒子など最先 端の研究現場で、担当 の研究者から直接、説 明を受けた。	合宿は「サマーチャ レンジ」と銘打ち、高 エネルギーが主権。19 日から27日（8泊）ま で北大、九大など39大 学から3年生87人が参 加。構内の研究者宿舎 に泊まり込み、素粒子 ・原子核▽物質・生命 の2コース17グルー プに分かれて朝から深夜 まで、講義や実験に明 け暮れていく。
--	---

08年ノーベル物理学
賞の小林・益川理論と

学的に究める研究者を
目指す。他大学の学生
と友達もでき、つなが
りを広げたい」と張り
切っている。

合宿は今年で5回目
を数える。校長の春山
富義・高エネルギー素粒子
原子核研究所副所長は
「日本の基礎科学を担
う人材を養成する新し
うな形となる」と話して
いる。【安味伸一】

サマーチャレンジ 校長時代(2009-2012)のエピソード

【卒業生による自主的な在り方検討会開催！】

サマーチャレンジ 4 期生による卒業研究発表会・在り方検討会

開催趣意・企画書

2012 年 03 月

1 企画・実行委員

阿部 真之介 東京理科大学 理学部 応用物理学科
椎野 健一¹ 東京工業大学 生命理工学部 生命工学科
名越 健誠 横浜国立大学 工学部 知能物理工学科
服部 優菜 お茶の水女子大学 理学部 物理学科
不破 麻里亜 東京大学工学部物理工学科
山崎 亜也香 群馬大学教育学部理科専攻

2 開催の趣意

2010 年 8 月のサマーチャレンジ (以下, SC) には大学 3 年生を中心に約 90 名が集い, 実験・講義に取り組みました。参加者の意欲が高く, 各自が主体的に実験・議論に取り組むことができ, 得難い経験となりました。また, 全国の様々な大学・学科から参加者が集まったことで, 広い人々の交流が生まれました。それらの交流は今に至るまで続いています。

現在, 参加者の大部分は 4 年生となり, 各自研究室に所属して研究を行なっています。そして, その多くは, 大学院修士課程に進学し, さらに研究生生活を続けていきます。4 年生が中心となって, 他の研究室・大学の人たちと発表・議論しあう機会ほとんどありません。それ故, SC に参加し, 積極的に実験・議論を行った学生同士が, もう一度集まり, 互いに研究を発表・議論し合う機会をつくるため, KEK において「卒業研究発表会」を開催させて頂きたく, お願い申し上げます。KEK の研究者の方々にも研究発表を見て, 議論して頂くことで, 学部生にとって, この企画でしか得られぬ経験となると考えています。大学 4 年間の集大成として, SC という特別な経験をもつ者同士が, 再び集い議論することは, 各自の勉学に対する大きな刺激になると考えています。

「在り方検討会」は, 貴重な場を与えてくださった KEK の方々に感謝するとともに, この先の SC 関係者のつながりに, 私たち OB・OG が貢献する方法を考えていく場とします。

SC のように, 全国の大学の物理, 化学, 生物学, 工学にわたる様々な背景をもつ学部生の勉学についての交流というのは珍しいものです。そして, SC は今年度で 5 回目であり, まだ始まったばかりです。この交流を活かし, さらに発展させていくことは, この先, 私達が社会の中心を担うようになったときにも, 有形無形の力になると考えています。「卒業研究発表会・在り方検討会」という形で, 再度集まることにより, 既存の交流をより活性化し, 新規の交流が生じることを期待します。

3.2 タイムテーブル

2012 年 3 月 8 日 (木)

口頭発表 19 名

08:30-08:45	開会式, お知らせ (挨拶: 阿部, お知らせ: 椎野)
08:45-10:20	口頭発表 (7 名) (司会: 椎野)
10:20-10:30	休憩
10:30-12:00	口頭発表 (7 名) (司会: 名越)
12:00-13:00	昼食, 休憩
13:00-14:00	口頭発表 (5 名) (司会: 阿部)
14:00-14:10	ポスタ準備, 休憩
14:10-16:00	ポスタセッション
16:00-16:45	サマーチャレンジ在り方検討会 (司会: 阿部, 名越)
16:50-17:50	キャリアについてのパネルディスカッション (司会: 椎野, 山崎)
17:55-18:40	キャリアについての座談会
18:40-19:00	記念撮影, 休憩
19:00-	懇親会

2012 年 3 月 9 日 (金)

口頭発表 18 名

08:45-10:20	口頭発表 (6 名) (司会: 山崎)
10:20-10:30	休憩
10:30-12:00	口頭発表 (7 名) (司会: 阿部)
12:00-13:00	昼食, 休憩
13:00-14:00	口頭発表 (5 名) (司会: 名越)
14:00-14:10	ポスタ準備, 休憩
14:10-16:50	ポスタセッション
16:50-17:00	閉会式 (挨拶: 椎野)

¹ shiino.k.aa@m.titech.ac.jp

サマーチャレンジ 校長時代(2009-2012)のエピソード

【ネットワーク！】

- ・ 各実験班に1冊ずつ、特別講師のサイン入り本を贈り、回覧してもらった
- ・ 卒業生達から、校長先生への感謝状を贈るイベントに招待
- ・ 卒業生の結婚式に呼ばれ、メインゲストとして挨拶
- ・ 卒業生は何人もアカデミア研究者として国内外で活躍
- ・ アカデミア以外でも、SC夏の情熱を肌で感じて生きている
- ・ SC Alumni（卒業生）は、1500人を超える
- ・ 社会の中に「基礎科学」という根を育てる人材が浸透
- ・ SC経験者が数百人、数千人に影響を与えうる
- ・ サマーチャレンジは、日本の科学技術を真に支える大きな力



サマーチャレンジ 3つの宝

1 自分の未来を探す旅

- ・ サマーチャレンジで自分が進む道への動機付けが強まる
- ・ 自分が目指す分野への更なるchallengeか、分野の転換

2 本物のBasic Scienceに触れるfun

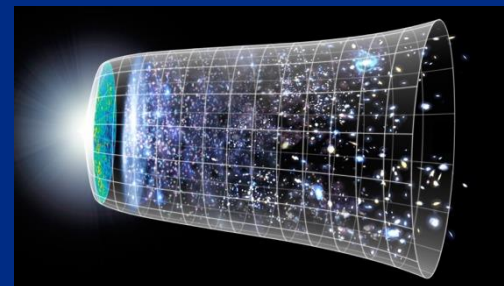
- ・ 演習テーマは実際のプロジェクトに繋がっている
- ・ KAGRA重力波、LiteBIRD CMB、XENON DM検出など

3 寝食を共にし、一つの目的に没頭する

- ・ face to faceのヒューマンネットワーク
- ・ interdisciplinaryの視点を持つこと

サマーチャレンジ20回！贈る言葉

- ・ サマーチャレンジは一人一人のビッグバン
- ・ 一人一人の未来は宇宙と同じ
- ・ 最後にどうなるか、ビッグクランチ、ビッグリップ…
- ・ どうなっても、20歳のこの熱い日々の経験は強く光る
- ・ 夜空のムコウ＝時空の未来から今日の光柱が見えるはず

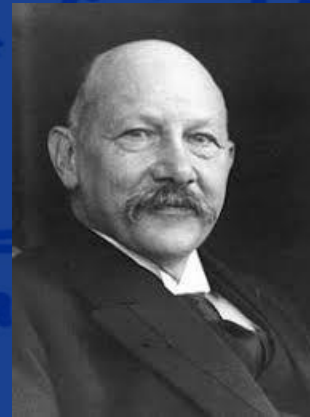
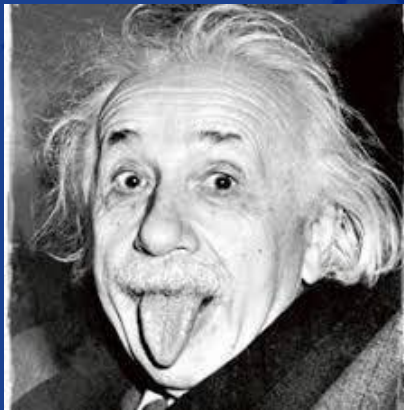


いつの日か、TA、講師、演習主宰者として回帰し、
サマーチャレンジの次の100年を支えてください！

100年先の社会を変える力を持っているのは、
基礎科学…

そして…

Summer Challenge !

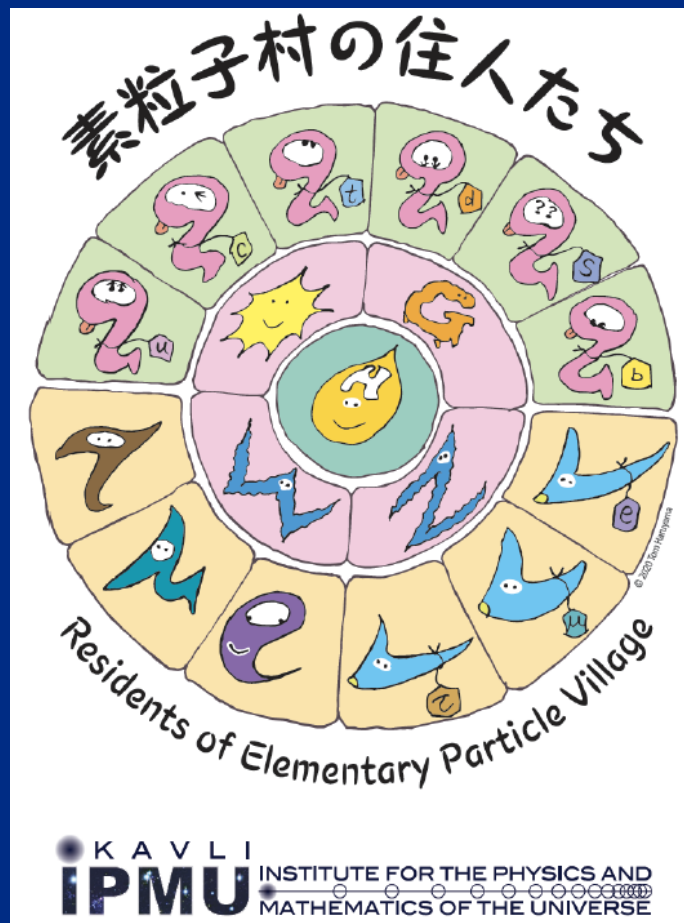


1905 → 1995

GPS

1908 → 1980 MRI

Thank you!



Illustrated and written by:
TOM HARUYAMA
Kavli IPMU
The University of Tokyo

春山富義
東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構